



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (22) 7207 番

92.8.24 No. 3646

# 合理化 8000人体制 貨物

## 合理化計画の意図

JR貨物は、六月の株主総会が終わり、七月に入ると橋元社長以下経営中枢が、「一五〇〇人合理化」、「九〇〇〇人体制」、「八〇〇〇人体制」など、いっせいに合理化計画をマスコミに流しはじめた。

これは、一見すると、社長以下各役員のパラバラな放談の体裁を取っているが、社員の間には「要員合理化やむなし」の雰囲気を作り出そうとする意図を持ったものとして、軽視することはできない。

## 実像を見せはじめた「8000人体制」

しかも、三年位の間に、現在の一万五千人から、一気に「八〇〇〇人体制」の実現に向けた合理化計画を、九月にも提案し、可能なところから一〇月にも実施しようとしている。われわれは、この間、確認してきたように、「分割・民営化六年目」に入り、JR各社間の、さまざまな格差がますます拡大し常態化するなかで、最も経営基盤の弱いJR貨物会社が、「バブル崩壊」に直撃され、凶暴化する攻撃であることをしつかりと見すえよう。

また、JR貨物は株主総会後機構改革を行い、営業部と技術部を一体化した鉄道事業本部を本社内に、鉄道事業部を関東支社に設置した。これにより「鉄道部門の近代化」「鉄道事業部門のスリム化」を強行しようとしている。

さらに七月一日には東海本社浜松地区で、駅・機関区・施設などを統合した、鉄道事業部を発足させた。今後こうした「同一地区における各現業機関を統合する」ことを拡大してくるにちがいない。

このように、貨物「八〇〇〇人体制」をめぐる闘いは、一気に白熱化してきた。しかも職場をめぐる攻防になることは明らかだ。貨物「八〇〇〇人体制」合理化粉碎、運転保安確立の闘いに、団結をうち固めて闘いぬこう。

## 本社支社へ申し入れ発出 貨物協議会総会の開催決定

貨物協議会は、八月四日に第五回、八月一七日に第六回の常任委員会を開催し、貨物「八〇〇〇人体制」合理化をめぐる情勢について認識を深めるとともに、具体的な取り組みを確認した。

具体的には、本社・支社への申し入れを発出し、「八〇〇〇人体制」合理化の解明を行うとともに、職場討議資料の作成、貨物協議

会総会の開催を決定した。

これをうけて、八月一九日に本社に対し、合理化計画、運転保安などの申し入れ(総連合申第一五号)を、また関東支社に対して、次期ダイ改、新小岩地区基盤整備などについての申し入れ(動労千葉申第三一号)を、それぞれ行った。

## 御礼 全組合員が全国各地を走り、汗と力で獲得した九二夏季物販の成功!

今年の夏も暑いなかで、皆様の九二夏季物販運動への御協力に心より感謝いたします。参議院選挙、PKOのたまたか等、多忙な日々なかで、私たちの物販販売に取り組んでいただきましたことに、あらためて御礼申し上げます。

被解雇者、家族をふくめ、この間(五月二八日)の中労委「解決案」や、六・二五反動判決等、厳しい状況をはねのけて元気で闘っております。

JR当局の新たな首切り大合理化攻撃を許さず、仲間と闘いを守るために最先頭で頑張ります。今後とも宜しくお願いします。 動労千葉協販部